

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

NPO法人

JAPAN NOW

観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第68号 発行日2009年11月25日

Contents

JN協会 21年を振り返って	1
北海道イベントの講演内容	2
霞が関ニュース	3
アメリカこぼれ話	4
世界遺産物語	5
城下町と観光、NEW SPOT	6
NPOからの提案、イタリア通信	7
お天気の話、編集後記	8



札幌市中央区にある時計台 観光名所になっている。

巻頭言

各地で講演・見学会を開催し成果あげる JN協会21年を振り返って

JAPAN NOW観光情報協会は平成21年も各地で講演会や見学会を開き、成果をあげた。3月9日には名古屋市で中部広域観光推進協議会と協力してフォーラムを行い、講師が中部圏の観光振興策などについて提言した。このフォーラムは中日新聞社が後援し、内容を紙面で大きく紹介した。5月26日には東京のプレスセンターで第8回定時総会を開き、年間の事業計画の決定のあと講演があり盛況だった。

また、7月13日には横浜で、財団法人「海事センター」との共催により横浜開港150周年を記念したフォーラムを行い、多数が参加した。9月には金沢市で郷土発展振興会との共催により観光や北陸新幹線に関するシンポジウムを開催し、11月18日には札幌市で第5回「21世紀は大北海道圏の時代」をテーマにフォーラムを行い、成果をあげた。このほか月例観光セミナーや見学会も開催した。（白澤）

農業・観光・リニアで現状を分析し提案 JN協会が札幌で第5回フォーラムを開催

JAPAN NOW観光情報協会は11月18日、札幌市のライフポート札幌で第5回「21世紀は大北海道圏の時代」（観光立国フォーラムin札幌）を開き、約300人が参加して盛況だった。松尾理事長の主催者挨拶に続き北海道知事の代理として日本経済部参事監らが来賓挨拶のあと講演会に

移った。講師の農林中金総合研究所の佐藤社長が「農業と観光」、JR東海の須田相談役が「北海道圏の広域観光」、JN協会の白澤事務局長が「リニア中央新幹線の実用化」と北海道新幹線について講演し、現状を分析したあと建設的な提案を行った。今回のフォーラムは北海道空港グループの「HKIアクシス」が全面的に協力した。（講演内容は2面に）

この後講師を囲んで懇親会が開かれ、午後7時ごろ閉会した。須田氏が新刊書「観光」（新しい地域づくり）を無償配布し、団体会員の大塚ベバレジから飲料水が提供された。



第5回札幌フォーラムの会場風景

日経新聞に掲載の「あすへの話題」 JN協会で講師の渡辺氏が出版

JN協会の講演会で講師を務めている元通産事務次官の渡辺修氏（現在は石油資源開発会社社長）が最近、日経新聞夕刊のコラム欄に掲載した「あすへの話題」と題するやわらかい文章を一冊の本にまとめて出版した。渡辺氏は「開かれた心」の中で「米国の友人から日本は人口も減り国力は今がピークか、と質問され、私は日本の若い人は減っていくが、近隣の東アジアにはすぐれた若者がたくさんいる。日本は国土が狭いので、米国のように移民の受け入れは難しいが、日本の企業は東アジアに進出し東アジアと一体になりながら成長していく」と答えたと言及している。

北海道は日本の重要な食糧基地

佐藤農林中金総研社長が講演



農林中金総合研究所の佐藤純二社長は18日、札幌市内のホテルで行われた「JAPAN NOW観光情報協会主催の「観光立国フォーラム・イン札幌」で「北海道の農業と観光」と題して講演した。佐藤社長は「北海道はイモ類など穀物やサケなど漁獲産出額ではトップのシェアを持つなど、農水産物では日本の最重要食糧基地だ。農水産業には食糧供給だけでなく、観光、教育、健康、休息など多面的な魅力がある」とした上で、農水産業の魅力を観光に生かすには「農山漁村で自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動（グリーン・ツーリズム）を広げる必要がある」と強調した。

観光地に三泊四日以上滞在するツーリズムは数年前から全国各地で行われている。「食」と「農」のつながり理解する「食育」に役立ち、ありのまま農業生活を体感できる一などの理由から、ツーリズムの効果は評価されてきた。佐藤社長は北海道内での具体例として「北海道の長沼町で行われているツーリズムは、年間約五千人の修学旅行生を農家が受け入れて、水稻、大豆、小麦などの農作業体験をさせている。北海道のツーリズムは地域との連携が大きく、農村、漁村に持続的に人を呼び込める。地域活性化をもたらす有力な手段だ」と述べ、農漁業に係る観光資源が豊かな北海道ならではの特徴を指摘した。

さらに町役場や漁協などが連携して漁業体験学習をしながら漁家民泊する寿都町のブルーツーリズムについても、本年度に中学生約二千人を受け入れた事例を紹介し、農漁村には都市住民には気づかない魅力があることを指摘した。また佐藤社長は農作業体験の教育的効果について「山形県の高校の事例で、生徒に一週間程度の農業体験させると、不登校生徒がいなくなり、教師が驚いている」と報告した。（中西亨）

新しい観光サービスの提供を

須田寛 JR 東海相談役



須田寛 JR 東海相談役は同じフォーラムで、新しい観光産業の在り方について「いまの観光客はこれまでの団体旅行中心の画一的なサービスだけでは満足しない。体験、学習のプログラムを加えるなど、観光客のニーズに合った選択できるものを付けなければならない」と主張、観光を魅力的にするためにはこれまでにない観光プログラムの必要性を訴えた。その上で「北海道は健康や自然を中心とした観光資源が豊富で、先駆けとなる新しいサービスを提供してほしい。そうなれば観光の中心が北海道になることも夢ではない」と将来に期待を表明した。

また須田氏は「観光施策と観光客の行動がミスマ

ッチしている。これを改善するためには観光地の特性を生かし、行政区画を越えた連携による広域観光を推進する必要がある。北海道には広域観光の主導的役割をしてほしい」と要望、一カ所の観光地で終わるのでなく、数カ所を巡る広域的なツアーが望ましいとの考えを示した。（中西亨）

リニアは東京・大阪間を最速67分で結ぶ 北海道新幹線の開業は 道経済の発展に効果的

JN協会の白澤照雄事務局長は、リニア中央新幹線の実用化と北海道新幹線の経済効果について講演した。この中でリニア中央新幹線の実用化について「JR東海によると、東京・大阪間の全線が2045年に開業すれば品川（東京駅になる）から新大阪間は最速列車で現在の東海道新幹線より71分短縮されて67分で直結し、首都圏と関西圏の航空客はリニアに乗り換えるため大幅に減少するだろう」との見通しを示した。

また「リニア中央新幹線は東京・甲府・岐阜県中津川・名古屋・三重県亀山・奈良市を通り新大阪に至るルートが有力視されており、南アルプスを通る最短ルートの距離は438キロとなる。JR東海は最短ルートの建設費を8兆4400億円と見込んでいるが、リニアが開業すると新大阪での山陽新幹線への乗り継ぎ時間を15分として東京・岡山間は1時間ほど短縮され約2時間、広島までは約3時間で結ばれる。リニアの初年度輸送需要（人数に乗車距離をかけたもの）は416億人キロとなり、東海道新幹線や航空機からの乗り換えが増える」と述べ、リニアの経済効果が大きいと指摘した。



白澤事務局長は北海道新幹線（新青森・札幌間）の建設について「これまで航空機だけに頼っていた北海道と本州を結ぶ交通網は高速鉄道でも結ばれ、便利

になる。かつて東海道新幹線が開業したあと東京から大阪間の都市が発展し東海道メカロポリスが誕生して日本経済の成長を牽引したように青森・函館・小樽・長万部・札幌が連携した北海道メカロポリスが生まれ、道経済の活性化が期待できる」と強調した。



第5回札幌フォーラム会場の講演者と来賓



東京 電が関発の最新情報 国土交通省・総務省・財務省

観光立国を支える人たち

観光庁観光地域振興課長

笹森秀樹氏（ささもり・ひでき）

宮城県・仙台市出身。84年3月東北大工学部卒。建設省に入省。大臣官房技術調査課建設技術調整官。08年7月総合政策局観光地域振興課長。08年10月現職。49歳。

民主党政権になって、政策は前原大臣や辻本副大臣がしゃべるので、役人はしゃべってはいけないということのようですね。

そうなんです。今回のインタビューも地域振興と観光の現状ということで引き受けました。

- 旅館というのは中小企業であり、景気が悪いので大変だと聞いています。



地域振興のためには旅館が元気にならないとどうしようもないと思いますが。

申し訳ないのですが、旅館業というのは観光産業課が所管しており、そちらで聞いて欲しい。観光地を地域として見ますと、お客が入っているところもあれば、長期低落しているところもあります。遠くでも行ってみたいところもあれば、近くでもそれほど行きたいと思わないところもあります。交通の便が良いとか、旅館が整っているとかではありません。個性的でオンリーワンという特性が生かされていれば、お客が来てくれます。住んでいる人が生き生きしているところには観光客が来ますよ。

- 地域に個性的なお宝を発見することが振興に役立ちます。よそ者、若者、ばか者が必要だといわれています。

その通りですね。よそ者は冷静に一步引いて情勢を見て、クールにアドバイスしてくれます。若者は行動力があり汗をかいてくれる。ばか者はいろいろな誹謗中傷に負けずに引っ張っていく、ということです。いまの観光地といっても40年から50年です。精進して勝っているところもあれば、没落しているところもあります。がんばっているところは良い観光地になっています。一定の努力が必要です。

- 観光地域振興課長になるまでの仕事は道路やダム作りでした。違和感はありませんか？

観光地まで運ぶのが道路などなので観光の手段であり、今の仕事は目的に近づくための仕事になり、違和感はありません。

- 前原大臣は観光に力を入れる、とっています。予算も今までの4倍の260億円になると聞いています。

観光立国を推進するという事です。ということ

であり、全国に30地域の観光圏があります。21年度に14地域が認定されました。平戸・佐世保・西海ロングステイ観光圏や北海道の知床観光圏などです。こうした観光圏を振興して景気回復する狙いもあります。観光はいろいろな仕事があり雇用促進の役割も担っています。観光の雇用は441万人といわれています。この数を増やすことが景気対策にもなり、必要でしょうね。

柏崎刈羽原子力発電所見学記

10月20日柏崎刈羽原子力発電所を見学した。

420万㎡の敷地に原子炉が7基あり、合計出力は821.2万KW。世界最大の原子力発電所でギネスブックにも載っている。

そもそも日本は資源に乏しく、二酸化炭素の削減という環境にも配慮した代替エネルギーとして原子力発電所が着工され、1985年1号機が営業運転を開始。1997年7号機の完成で東京電力管内の電力量の20%が柏崎刈羽原子力発電所で作られるようになった。その原子力発電所が2007年7月16日マグニチュード6.8、震度6強の中越沖地震の直撃をうけたが、運転中の原子炉すべてが安全に停止した。私の記憶ではその年はかなりの猛暑で水銀柱もウナギ登り、電力の不足が叫ばれていた。その時東京の電力が柏崎刈羽原子力発電所から送電されているということに改めて思いだし、原子力発電所の必要性を切に感じた事を覚えている。

あれから2年余り、耐震強化工事をはじめ設備を分解しての修理など、安全安心のための補修補強点検が1万人弱の人の手で昼夜交替で行われ、1基が営業運転間近と感じた。見学に際しては、ヘルメット、ジャンパー、手袋、靴下を着用。放射線を検知する機械をポケットに、見学後は汚染されていないか確認するというドキドキ緊張体験ではあったが、安全には十分な注意がなされていることが感じられた。



原子力発電所、原発というとなか目に見えない巨大なものという印象で近づかない方がいいかな？という印象さえ抱いていた。

今回の見学で操業に関しても何段階も対策を立てて安全に対する万全の体制をとっているということを知り、原発への理解が深まった。その後10月30日内閣府原子力安全委員会は、6号機の運転継続を認めた。今後地元自治体の同意や原子力安全・保安院の最終試験を経て営業運転再開になる。続いて7号機も12月には営業運転するという10月31日付の新聞記事が目にとまった。

柏崎刈羽原子力発電所に関するホームページは <http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html> (堤るり)

アメリカ・こぼれ話 「プロスポーツ球団の愛称」

JN協会理事 北村 嵩

アメリカのプロ野球、アメリカン・フットボール、バスケットボール、アイス・ホッケーなどのプロスポーツの球団には、地元と密着した愛称を持つチームが多い。プロ球団として最も歴史が古いプロ野球では、歴史ある球団ほど「レッド・ソックス」「ホワイト・ソックス」「ジャイアンツ」「ブレーブス」「タイガース」「パイレーツ」などクラシックな名前を保持しているが、新しい球団はNASAがあるヒューストンの「アストロズ（宇宙飛行士の略）」ビールの町ミルウォーキーの「ブリューワーズ（醸造業者）」ロッキー山脈の麓の町デンバーの「ロッキーズ」双子都市ミネアポリスとセントポールの「ツインズ」などが地元密着型の愛称を付けている。プロ球団としては後発のアメフトやバスケ、アイスホッケーでは、より地元になんだ愛称が多い。フットボールでは大平原牧畜の町ダラスの「カーボイズ」、ジャズ発祥の町ニューオーリンズはジャズの名曲に因んで「セインツ（聖者が街にやって来る、から）」、石油産業の町ヒューストンは「オイラーズ」、先住民の多く住む町カンザスシティーは「チーフス（酋長）」、海に近い町マイアミは「ドルフィンズ（いるか）」などで、バスケットの「シアトル・スーパーソニック（超音速機）」は町の航空機産業から、「ヒューストン・ロケッツ」は宇宙産業、「デトロイト・ピストンズ」は自動車産

日本唯一のホテル客室常備文化情報誌

JAPAN NOW

1985年の創刊以来、内外の多くのお客様にご愛読いただいた「JAPAN NOW」誌は、日英全文対訳で学校教材としてもますます高く評価されています。



今年4月に完成した2009-2010年度版は、日本全国のホテル約100館55,000室の客室に常備されています。

日本文化の再発見を通じて新たな観光資源を紹介し、現代日本を代表する執筆者やカメラマンたちによって日本の歴史といまを生き生きと伝えることが、「JAPAN

NOW」誌の編集方針です。

2009-2010年度版も、2010年に遷都1300年を迎える奈良平城京に焦点を当て、日本文化と国家の原点を探る第1特集と、古代以来の日本人とメディアとのかかわりを図版を中心に紹介する第2特集に加え巻頭インタビュー・ページでは、昨年ノーベル物理学賞を受賞した南部陽一郎氏にご登場いただくという、多彩な内容となっています。1部2000円（送料別）で購入できます。

お問い合わせは(株)ジャパン・ナウへ。

電話 / FAX 03-3536-1751

業などそれぞれ地元産業に因んだ愛称である。1849年のゴールドラッシュから命名された「サンフランシスコ・フォーティナイナーズ」は町の成り立ちのエピソードからの愛称で、同じアメフトでも「バッファロー・ビルズ」は西部劇の英雄バッファロー・ビルの名前をそのままチーム名にしたもので、アイスホッケーの「セントルイス・ブルース」は町とは直接関係ないジャズの名曲を拝借した一種の洒落である。バスケットの強豪「ロスアンジェルス・レイカーズ」や「ユタ・ジャズ」のように地元と結びつかない愛称を持つチームもあるが、それぞれ湖の多いミネアポリスやジャズの発祥の地ニューオーリンズから移ってきたが、前の都市でのチームの愛称をそのまま使用したからである。



The report of Rikkyo activities.

食を通じた異文化交流

Nuggets of Hospitality 2年 小玉萌香

私たちナゲッツのサークル活動では、留学生との交流があります。何かエスニック料理を作ってみたいという意見が上り、今年の文化祭ではインド料理のサモサを作ることになりました。

まずは夏休みの段階から、何度も試作を行いました。味付け・調理時間・作業工程などの確認、改善を重ね、本番を迎えました。しかしながら、最大の問題は、まずサモサの知名度があまりにも低いということでした。そこで、この状況を打破するために私達が考えたのが、「試食」の実施でした。私たちの口から説明するよりも、お客さんの口で実際に美味しさを知ってもらうのが一番だ！と考えたからです。これにより、売り上げは確実に伸びていきました。何より、購入の有無に関わらず様々なお客さんとのコミュニケーションが広がったことは、私たちにとても新鮮で大きな喜びとなりました。

また、印象的だったのが2日目に出会った外国人女性客とのやりとりです。彼女は、私達がサモサを作っていることに大変興味を持ってくれました。しかし私たちのサモサは、牛肉を使っていたので、宗教的な理由から、彼女にそれを食べてもらうことはできませんでした。このことをきっかけに私は、伝統的な料理には、その土地独自の文化や宗教との関係性が内在しているのだということに改めて気付かされました。

なんとも慌ただしい2日間ではありましたが、多くの人と交流を重ねながら様々な体験を得ることのできた、とても内容の濃い文化祭になりました。

会員の投稿を歓迎します

情報紙の充実を目指して！！

観光情報紙2010年01月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400～500文字程度)。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。

発行は2010年01月25日。締め切りは01月10日。

【会員募集】

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員(1口5千円)、団体会員(1口5万円)

東京都渋谷区代々木1-58-13小田急代々木ビル3階

JAPAN NOW観光情報協会(電話03-5304-9500)

「世界遺産」物語……

コルティナ・ダンペッツォ

近藤 節夫

今年7月新たに13の世界遺産が登録された。そのひとつにイタリア、南チロル地方のドロミテ山塊に抱かれた風光明媚なリゾート地、コルティナ・ダンペッツォがある。

1956年この地で冬季オリンピック大会が開催された。その時アルペン・スキー種目で圧倒的な強さで史上初のアルペン三冠王となったのが、オーストリアの至宝トニー・ザイラー選手だった。奇しくも世界遺産登録の翌8月、黒い稲妻 ザイラー選手は多くのスキーファンに惜しまれながらこの世を去った。オリンピックが終わってもコルティナの人びとは、この山深い僻地でオリンピックを開催した誇りとザイラー選手の功績をいつまでも忘れることなく、アルペン・スキー会場となったゲレンデ下のロープウェイ駅にオーストリアの国旗を掲げた。それから時を経てオリンピックで翻った、9つのメダリストの母国国旗が掲揚されるようになり、今ではあの緑濃いリゾート地にアジアの中でただひとつ、白地に赤い日章旗がへんぼんと翻っている。

日の丸は、ザイラー選手に次いで回転競技で銀メダルを獲得した日本の猪谷千春選手の功績を讃えたものだ。このコルティナとザイラー選手の母国オーストリアでは、今でも最も有名な日本人は「イガヤ」である。

ところが、この山懐深いコルティナへ行くのは、

時間がかかり少々厄介である。日本人観光客もここまでは容易には訪れない。標高1,224mの山間のリゾート高原であるだけに公共輸送機関に乏しく、通常は車で訪れるほかに手段はない。しかし、北の入口オーストリアから下るにしろ、イタリア南部から上ってアクセスするにせよ、数多くのバリエーション・ルートに恵まれ、どの路を選んでも牧歌的な田園地帯を通り抜け、トンネルを潜り抜け岩肌に沿って走り、窓外に展開される目を見張る「ドロミテ・アルプス観光ルート」の絶景と「逆さドロミテ」のミズリーナ湖の天然の美は、「絵にも描けない」美しい山の竜宮城である。

街はお伽の国のようにこじんまりと上品にまとめられ、その中心には瀟洒なショップと山小屋風のホテルが点在し、いくつものロープウェイが観光客を雲上の世界へ誘い、思う存分ヨーロッパ・アルプスの美観を味わわせてくれる。展望台トファーナ・ディ・メッツォの標高は、実に3,244mを誇り、日本第二の高峰・北岳の3,192mを凌ぐほどである。

これだけ自然の美に恵まれ、それらが大切に保存され、アルプスの高所から観光客の目を楽しませてくれる広大なランドスケープはそうざらにあるものではない。敢えて難点を挙げれば清潔過ぎることと温泉がないことぐらいだと言えば贅沢だろうか。

食にまつわるエピソード

ベルリーナ

大島 慎子

東西冷戦さなかの1963年6月に西ベルリンを訪問したJ.F.ケネデーは、ベルリンの壁の前で後世に残る演説を行った。「自由を求めるものは皆ベルリン市民である。私は、ベルリン市民である」ケネデーは、最後の箇所だけドイツ語で、Ich bin ein Berliner と書いた。

このフレーズはドイツ人に感銘をあたえたが、同時に物議をかもした。

ベルリーナーという単語は、ベルリン市民の意味もあるが、ドイツでは実はジャム入りドーナツ、または揚げパンの名称である。演説時は、文脈からベルリン市民と理解されているので問題はないのだが、私はベルリン市民であると言うときに、ein という定冠詞はつけないのが一般的である。これは、「私は日本人です」という時に、I am Japanese といえよと同じで、わざわざ a Japanese と言う必要はないのと同じである。冠詞をつけると、「もの」になり、これが偶



ベルリーナ

然ドーナツの名称であったため、ケネデーの演説は、「私はドーナツだ」という意味にとれると後年議論をよんだ。

ケネデーは、当時、通訳に英語のメモをわたし、I am a Berliner をドイツ語で教えてほしいと伝えていた。通訳は言葉通りにドイツ語訳したが上記の文章である。ベルリーナ プファンクーヘン(Berliner Pfannkuchen)は主にドイツのパン菓子で、甘いイースト入りパン生地を油で揚げ、中にマーマレードやジャムをつめたもので、外側は、粉砂糖などがかかっている。ジャム以外にもチョコレートやシャンパンをフィリングする場合もあり、通常は焼いた後に大きな注射器のようなもので注入する。同じものがイギリスなどの英語圏ではジェリードーナツ(Jelly Doughnuts) と呼ばれている。伝統的に大晦日や謝肉祭(カーニバル)の時に食べる菓子である。

ベルリーナーはこの逸話もあって英語圏で知られるようになった。フランクフルターといえば、ソーセージであり、フランクフルト市民のこと、また、ハンバーガーは、ハンブルク市民であり、ひき肉料理のこと、と知られている。しかし、ベルリーナのように語り継がれる逸話はない。

城下町と観光

津城と伊賀上野城 / 三重県

津城では政務

伊賀上野城は軍事上の拠点

J N協会参与 長宗我部 友親

伊賀上野は陸路で京都、大阪、堺に近く、津は伊勢から発して海に出るとやはり京都、大阪、堺につながる。

つまり、伊賀上野と堺は、関東に座って西に睨みをきかず徳川家康にとっては、きわめて重要なポジションにあった。

だから、誰にこの要所を、任せるかを家康は考えた。そして、関ヶ原の戦いで大谷吉継ら西軍と死闘を演じて、勝利した藤堂高虎に白羽の矢を立てた。

藤堂高虎は慶長13年(1608年)に、津藩主として入城し、伊賀上野も領地として受ける。高虎が、城主となる前は、津城は筒井定次、伊賀上野城は富田信高が治めていた。筒井氏は家臣統制の乱れをつかれて改易となり、富田氏は加増の上で伊予宇和島に移される。

藤堂高虎は津城に入り、大阪の陣が落ち着いたの

を見て、慶長16年(1616年)に、津と伊賀上野の両城の改築に着手する。

この際、高虎はこれら二つの城の役割を鮮明にする。津城は政務を実行する拠点と位置づけた。そして、伊賀上野城は西を睨むための軍事上の拠点として、考えた。

このため、津城の城下町が着々と整備され、軍事が主任務の伊賀上野城の石垣は、高さが30メートルを超え、要害の感がある。

津城の城下町は、伊勢の参宮街道を引き入れて町の区を画定めるなど、賑わいを作る努力がなされている。

藤堂高虎については、その主君を何度も変えているために世の批判があるが、その戦闘能力などの実力についての評価は高い。また、城作りの名手でもあって、城を多く手がけている。



伊賀上野城



津城



藤堂高虎像

NEW SPOT

in japan

浅草織り姫

津軽の民俗民具の展示館が東京・浅草に11月1日オープンした。浅草寺・二天門の東側、築43年の6階建て旧・三社苑ビルを全階改装した「アミューズ・ミュージアム」。芸能事務所アミューズを創業した大里洋吉さん(63)が同郷の縁もある青森在住の民俗研究家、田中忠三郎さん(76)のコレクションをここにまとめた。館内案内役を務める6人の「チーム織り姫」は、この夏に結成、青森で2カ月半特訓した機織り、手踊りなどを披露する。

同館の名誉館長になった田中さんの40年間にわたるコレクションは約3万点。祖父母の代から伝わる日常の道具類、衣類などを自宅の大きな蔵に収めていたという。うち786点が国の重要有形民俗文化財「津軽・南部のさしこ着物」に1983年指定された。これらは文化庁のデータベースで「長着175点、短



機織りや手踊りでミュージアムを盛り上げる織り姫たち

着174点、そでなし76点、たっつけ(股引き)・ももひき324点、前だれ37点」と分類されている。

開館企画は「布を愛した人たちのものがたり展」で、刺し子着物や古布のパッチワークアート「BORO(ボロ)」などを展示する。現代アーティストにはレンタルスペースを提供。館内の「浮世絵シアター」はボストン美術館所蔵「スポルディング・コレクション」のデジタル浮世絵を公開。屋上は「浅草展望デッキ」と呼び、浅草寺境内を見渡し、建設中の東京スカイツリーを望む。

(写真・文 林 莊祐)

NPOから提案します

JAPAN NOW観光情報協会 加賀市長 寺前秀一

当協会の創設期以来の理事をさせていただき、機関紙にコラムを掲載させていただいてまいりましたが、このたび、加賀市長選挙に立候補したことにより、高崎経済大学を自動失職いたしました。幸い選挙に当選いたしましたので、無職の期間は3週間ですみました。立候補前は地方公務員でありました。高崎市外の政治活動は教育公務員としての制約はあるものの、立候補の準備活動は違法ではなく、年次有給休暇を活用して行なっていました。

市長選挙は、自民・民主の激烈な衆議院直後ではありましたが、党派を超えて、自民系、民主系、公明系の県会議員、市会議員等に支援していただき、連合石川、加賀市農協等の推薦もいただきました。青年会議所が開催しました公開討論会の成果が当落に大きく影響したマニフェスト型の選挙といわれ、地方にも確実に政治改革の波が押し寄せてきていることが実感されました。とはいえ、郷里を離れて40年、顔が知られていない選挙民からの支持を得るには、握手の回数がものをいう溝板選挙は不可避であり、また、民意を直接知りえるミニ集会は必須でありました。ミニ集会で出された意見はマニフェスト作成に大きな影響を及ぼしました。観光地であっても市民の最大の関心事は、救急医療、保育

園・小学校の統合、路線バスの廃止等の生活に密着したことであり、地域観光政策を研究するうえでも留意すべきことでしょう。

加賀市は、山代、山中、片山津といった温泉地を抱える観光都市として有名ですが、必ずしも観光産業が第一位の産業ではない複雑な地域です。加賀前田家の支藩である大聖寺十萬石の豊かな土地であり、山中漆器、九谷焼等の伝統工芸、北前船博物館等にその名残が見られます。平成の合併はもとより昭和の町村合併がまだ影響しており、地域バランスに苦慮させられてきた地域です。公共交通網の維持には市内各地に散らばる公的施設の効率的配置が好ましく、複数の公立病院の統合も救急医療の充実の前提となるのですが、身近な公立病院がなくなることにより心理的抵抗感があります。正論を強調すると選挙ではネガティブキャンペーンの材料となります。政策の順序としては、地域の誇りを取り戻すことが不可欠であり、人が訪れてくる地域であると地元民に認識されることが必要ですから、地域観光政策の重要性が痛感させられます。「萩・津和野・大聖寺」を合言葉に、金沢に次ぐ第二の城下町大聖寺の城跡・町屋再生プランを訴え、歴史・品質で実質輪島塗を超える「山中漆器」再評価プランを訴えたのもこのことによるものです。

イタリア通信 その12

イタリアのアッシジと日本の高野町が「文化・観光促進協定」を調印

イタリアは2009年6月に新たに世界遺産に登録された北イタリアのドロミテ地域を含めると現在46の世界遺産を誇り、世界遺産の数で世界NO1の位置にある。イタリアの数多い世界遺産の中でも、日本人にとってなじみのある場所の一つはアッシジではないだろうか。イタリア中部ウンブリア州にあるアッシジは、聖フランチェスコ生誕の土地として名高く、2000年に「アッシジのサン・フランチェスコ聖堂と関連建造物群」が世界遺産に登録され、世界中から多くの巡礼者をはじめ、旅行者を集めている。

この10月26日、アッシジで、同市と日本の和歌山県高野町との「日伊世界遺産都市の文化・観光促進協定」が調印された。およそ1200年の信仰の山の歴史を秘めた山上の宗教都市である高野山は、2004年『紀伊山地の霊場と参詣道』として世界遺産に指定されている。ともにその高い精神性で世界遺産都市に登録されている市町として相互の交流を促進し協力関係を深めるため、今回の調印が実現した。私は、調印に関する事前準備やコーデ

ーション、そして調印式の通訳進行などを委嘱され、調印式に臨んできた。

アッシジ市と高野町との交流は1986年イタリアで開催された世界宗教会議に共鳴し高野町が親書を届けたことにはじまる。その後も表敬訪問や合唱団コンサート公演、写真展開催などアッシジと高野町間の交流が重ねられ、この調印を迎えることになった。調印式に臨んだ高野町の後藤太栄町長は、当時町議会議員であった1986年、高野町からの親書を自らアッシジ市に届けた23年前の思い出に触れ、「類まれな弘法大師空海と聖フランチェスコという二人の聖人により信仰の地、聖なる山岳都市として栄えてきたという様々な類似性を持つ両市町」の協定締結への強い期待と抱負を述べた。

一方、「イタリア世界遺産都市協会」会長でもあるアッシジのクラオディオ・リッチ市長は、今回の協定が、世界遺産都市としての文化歴史自然資源の価値を広く知らしめ、その維持や活用に関する情報交換など協力関係を強化すること、同時により広く日伊の世界遺産都市間の友好協力関係にもつながることを希望するとアピールした。従来の姉妹都市という形ではなく世界遺産都市間の「文化・観光相互促進協定」と的を絞った新しい形の日伊の市町間のネットワークに今後の期待が集まっている。



高野町・後藤太栄町長と アッシジ市・クラオディオ・リッチ市長 (和歌山県高野町提供)

JAPANITALY.COM社

代表取締役 大島悦子 (Etsuko Oshima)

初雪の時期

去る9月12日に旭川地方気象台は、北海道の最高峰である旭岳で初冠雪となっているのを観測したと発表しました。今の時期は北日本では高い山はもちろん、平地でも雪が降ってもおかしくない時期です。

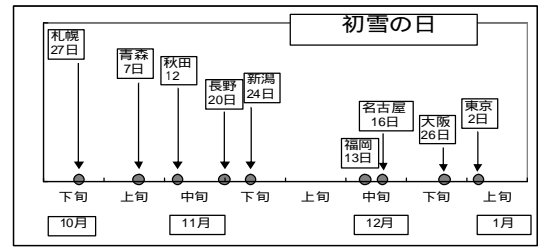
主な地点の平年の初雪の日付を図に示しました。当然と言えば当然であります。北の地方ほど初雪が早くなっています。札幌での初雪は10月27日で、その後、日が経つにつれ東北から北陸の日本海側で初雪が見られるようになります。

東京以西の太平洋側では、初雪はこれから12月から1月となります。これらの地方では平地での雪は先の話ですが、高い山はもちろんのこと、峠では降るものは雨ではなく雪の確率が高くなります。

これから仕事などで峠越えをする機会があると思います

が、峠では雪、雪が降っていなくても、路面が凍結しているところがあると覚悟し、より慎重な運転を心がけたいものですね。

ところで日本海側の雪は西高東低の冬型の気圧配置になると降り、太平洋側の雪は本州南岸を低気圧が通過すると降ります。日本列島でも、日本海側と太平洋側では降雪の原因が異なります。



日本気象協会 金野 雅之

会員名簿

(敬称略) (個人会員名簿は公開していません)

名誉顧問	： 松山善三(映画監督)
理事長	： 松尾道彦(日本海事センター会長、元日本鉄道建設公団総裁)
顧問	： 丹羽晟(前理事長、日本空港ビルデング顧問)
副理事長	： 白澤照雄(JN協会事務局長)、岡村進(元小田急トラベル社長)、横山善太(株)JALUX特別顧問、大島慎子(筑波学院大学教授)、小竹直隆(元JTB専務)、須田寛(東海旅客鉄道相談役)
支部長	： 片山文彦(新宿)、魚住隆彰(北陸)、麗理沙(立教)、長尾亜夫(九州)、須田寛(中部)、岩田弘三(神戸)、坂本真一(北海道)、梅原利之(四国)、丸森仲吾(東北)、大田哲哉(中国)

【団体会員】(2009年11月25日現在)

AGC硝子建材エンジニアリング(株)、(株)朝日ネット、(有)アオバ、(株)アドバン、(株)アドルックス、荒井建設(株)、アソデス電気(株)、安藤建設(株)、イーエムティー(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、富山県射水市、(株)井六園ワールド、岩田地崎建設(株)、(株)H K Iアックス、(財)NHKインターナショナル、NPO「江戸城再建を目指す会」、(株)大林組、隠岐の島町(島根県)、(株)奥村組、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、(株)大塚バベル、環境テクノ(株)、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)キャントウ、(株)熊谷組、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕人舎、佐川アドバンス(株)、(株)サマサタパサジャパンリミテッド、三協立山アルミ(株)、(株)三普旅行社、四国電力(株)、四国旅客鉄道(株)、清水建設(株)、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTB、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、(株)センインターナショナル、常盤興産ビルジー(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、静和堂竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、パーキングプロ(株)、セントラルリングシステム(株)、(株)ダイエーコンサルタンツ、第一交通産業(株)、第一資材(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成サービス(株)、大成設備(株)大成ロテック(株)、大成ユーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、(株)高商、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、(株)丹青社、中国電力(株)、中部電力(株)、TCトレーディング(株)、(株)哲研、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベータ(株)、東北電力(株)、トヨーケッツソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)、日本オーチス・エレベータ(株)、(株)日本海コンサルタンツ、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、(株)日本プラント建設、(財)日本ホテル教育センター、(株)ニューテック、ネスレ日本(株)、ネスレコンフィヨナリ(株)、箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)日立製作所、(株)ビッグウイング、広島電鉄(株)、福岡空港ビルディング(株)、(株)パロクジャパンリミテッド、(株)フィールドサービス、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、ブナネットワーク(株)、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテルモトロホリタン、前田建設工業(株)、(株)ホテルリックス、マイナビホールディング(株)、(株)まるまんフィオーレ、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、(株)USEN、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、(株)ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

編集後記

政府は日本の地球温暖化対策として2025年までに温室効果ガスを25%削減する計画を国連などで公約している。しかし、温暖化の本当の要因は人口100万都市が帯状につながった巨大都市圏が世界各地に出現する「地球のエキュメノポリス時代」や南半球の人口爆発であることを見落としているのではないかと。温室効果ガスはこの膨張する都市化現象や人口増加に伴って増え、大都市圏から発生するヒートアイランド現象(人工熱汚染)も温暖化をもたらしている。

私は約35年前に「自動車業界」という本を出版したが、その時に調べた資料によると当時は南半球の発展途上国で人口爆発が進み、北半球の先進国では都市化が進展してこれが国際的な問題となっていた。例えば首都圏では都心の気温が外縁都市圏よりも高く、土砂降りが少ない「都市気候」が顕著になっていた。最近ではこうした地球の都市化時代の進展に伴って都市気候が世界的に広まり、地球温暖化に拍車をかけているといえる。日米欧や新興国は、単なる温室効果ガスの削減(石油、石炭など化石燃料の使用抑制や自然エネルギーへの転換など)だけでなく、新しい視点からの温暖化対策に取り組むべきだ。(白澤)

特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます

JAPAN NOW
観光情報協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13
小田急代々木ビル3F
電話 03(5304)9500
FAX 03(5304)5632
E-mail info@japannow.org
Home page <http://www.japannow.org>

発行人：白澤照雄(JN協会事務局長)
編集長：白澤照雄(JN協会事務局長)
発行部数：3000部 主な配布先：会員、中央官庁、
地方自治体、民間企業、マスコミなど